

アジア湿地シンポジウムへの協賛とポスター発表

2017年11月7日から11日にかけて、佐賀県で第8回アジア湿地シンポジウム「湿地と持続可能な暮らし」が開催されました。

アジア湿地シンポジウムは、政策立案者、湿地管理者、NGO、資金供与機関、保全推進者、学者、研究者、実践者、学生など多様なグループがアジアの湿地の保全、持続可能な管理、賢明な利用に関するお互いの知識、知恵、実践的な経験を共有し、学ぶ機会を提供する場です。弊社は、協賛企業として参加し、ポスター発表を行いました。今回は、25年ぶりに日本で開催されたアジア湿地シンポジウムの様子をご紹介します。

シンポジウムには26カ国、地域から、約450名が参加しました。来年アラブ首長国で開催されるCOP13を控えて、シンポジウムでは基調講演、有明海セッション、市長円卓会議、口頭発表、ポスター発表、フィールド視察、佐賀ステートメントの議論が活発に行われました。

口頭およびポスター発表では、以下の11のテーマに分けて発表がありました。

- ・湿地と防災/気候変動
- ・湿地と自然資源の利用/農業/漁業/食料の確保
- ・湿地と生物多様性/再生/再導入
- ・都会の湿地/湿地都市/自然インフラ
- ・湿地とコミュニケーション・能力養成・教育・参加・普及啓発/持続可能な開発のための教育
- ・湿地と若者
- ・国境をまたぐ湿地/国際協力とパートナーシップ
- ・湿地と持続可能な観光
- ・湿地と文化
- ・湿地と変化/モニタリング

フィールド視察では、諫早市を訪問後に、フェリーに乗船して有明湾を横断し、ラムサール登録湿地である荒尾干潟を視察しました。視察を通じて、湿地生態系を守る難しさ、それに取り組む人々、広域ネットワークを構築して保護活動を進める重要性を再認識しました。

シンポジウムの最後には熱心な議論の末に"Saga Statement"がまとめられました。"Saga Statement"では、都会の湿地、ツーリズムの重要性が明記されるなど、湿地保全へは人が積極的に関与することが肝要であることが示されました。

2017年11月18日

自然環境部 長濱 幸生

活動写真



Photo 1: シンポジウム会場入り口付近



Photo 2: シンポジウム会場前のブース



Photo 3: シンポジウム会場



Photo 4: 諫早湾を見学するシンポジウム参加者



Photo 5: ラムサール登録荒尾干潟を体験するシンポジウム参加者

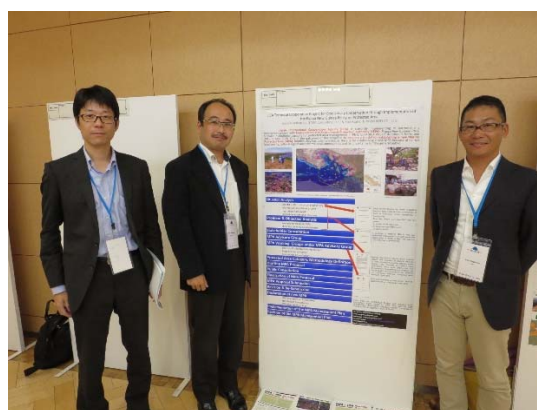


Photo 6: ポスター発表